

三世代ファミリー同居・近居促進事業について（案）

子育てを巡る現状・課題

○核家族化などの進行により、子育てを助けてくれる人や子育てについて相談できる人が家庭内や近所にいないなど、

家庭での子育てが孤立化

→子育ての負担感・不安が増加。共働きの家庭では、子どもの急病などいざという時に頼りになる存在がいない。

【県の核家族世帯の割合】	H2	H12	H22	【三世代同居の割合】	H2	H12	H22
	56.2%	→62.7%	→71.3%		39.0%	→32.4%	→22.4%

○子どもの成長段階ごとに必要な支援として「配偶者・祖父母など家族の支援」が多く求められ、**理想の家族の住まい方として「近居」を望む人が多い。**

→理想の家族の住まい方（H25 内閣府調査）

- ①祖父母と「近居」31.8% ②親と子どもの世帯（祖父母と離れて住む）21.7%
③祖父母と「同居」20.6% ④夫婦のみの2人暮らし18.6%

○三世代同居世帯の方が核家族世帯に比べ、子どもがいる割合が大きい。

	子どもが1人いる割合	2人いる割合	3人以上いる割合	
三世代世帯	44.0%	38.8%	15.4%	(H22 国政調査)
核家族世帯	28.4%	23.2%	6.8%	



事業の概要

子育て家庭の精神的不安を解消するとともに、子どもの急病時などに特に共働きの親が、祖父母世代から直接サポートを受けられるような子育て環境を拡大させるため、三世代同居・近居世帯を支援する。

<助成内容>

**祖父母・親・子の三世代が、新たに同居または近居をするため、
住宅の新築や増改築等をする場合に、費用の一部を助成**

近居とは・・・親世代と祖父母世代が2km以内に住む場合

